

## 主語判別ズル①

## 《尊敬語を使う① 日記・随筆系の主語判別》

① 尊敬語あり ↓

② 尊敬語なし／心情語 ↓

次の文章は『成尋阿闍梨母集』の一節で、息子の成尋阿闍梨の入宋（宋の国へ行ってしまうこと）の際に日本に取り残されてしまう母の悲しみを綴ったものである。これを読んで後の問に答えよ。

げにおぼゆること、その三年過ぐるまで生きで、かの唐の出で立ち見じ、今日明日にても死なむなど

A 思ひ慰めて、年ごろ過ぐしはへりたるを、三年過ぎて

この唐渡りのことまことなるほどに、仏の御具ども、幡や何やと、人々して急がせたまふ。夢の心地して、こはいかにと、おぼゆるほどに、おはしたり。

問 傍線部A～Dの主語は以下のどれか、それぞれ選べ。

- 1、筆者
- 2、成尋
- 3、その他の人

## 主語判別ズル②

### 《尊敬を使う② 会話のやり取り》

↓ AとBの会話のやり取り中

Aいはく「尊敬V」

Bいはく「尊敬V」

次の文章は『うつほ物語』の一節で、妹のあて宮が東宮に入内することが決まり、兄の侍従が悲嘆にくれている場面である。これを読んで後の問に答えよ。

侍従の君、見たてまつりたまひて、とみにものも

聞こえたまはず。からうじて「今日や<sup>A</sup>参りたまふ。

御送りをだに<sup>B</sup>え仕うまつらずなりぬること。生きて

また対面賜はらむこと、難くもあるかな」と、涙を

流して聞こゆ。あて宮、「心にもあらずのみなむ。

いでや、などかはかくのみは<sup>C</sup>ものしたまはむ」。侍

従、「なほ、え侍るまじきにこそ侍るめれ。よろづ

のこと、<sup>D</sup>心細くかなしきこと」と聞こゆ。

問 傍線部A～Dの主語は以下のどれか、それぞれ

選べ。

- 1、あて宮
- 2、侍従
- 3、その他の人

## 主語判別ズル③

## 《背景知識を使う》

↓ 男女関係の背景から確定する。

次の文章を読んで後の問に答えよ。

昔、大和の国葛城かづらぎの郡に住む男女ありけり。この女かたちいときよらなり。年ごろ思ひかはして住むに、この女いと悪わるくなりければ、思ひわづらひて、限りなく思ひながら妻め（第二の妻）をまうけてけり。

この今の妻は富みたる女になむありける。殊ことに思は

ねど、A行けばいみじうBいたはり、身の装束さうぞくもいと

きよらにせさせけり。かく賑にぎははしき所に慣らひて、

C来たれば、この女いと悪げにてゐて、かくほかに歩あり

けどさらにD妬ねたげにもみえずなどあれば、いとあはれ

と思ひけり。心ちには限りなく妬く心憂しと思ふを

忍ぶるになむありける。E留とどまりなむと思ふ夜も、な

ほ「往いね。」とF言いひければ、・・・

（『大和物語』）

問 A～Fの主語を以下から選べ。

- 1、第一妻
- 2、第二妻
- 3、男

## 主語判別ズル④

## 《重層読みから確定》

次の文は『落窪物語』の一節で、北方に縫物を強要されている女君の部屋を北の方がのぞきみる場面である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

「夜いたうふけぬ。おほし。寝給ひね」と<sup>A</sup>責むれば、「今少しなめり。早う寝給ひね。縫いはてて

およ」といへば、「ひとり<sup>B</sup>起き給へるよ」とて寝

給はぬ程に、北の方、縫はで寝やしぬらむとて、う

しろめたうて、寝静まりたる心ちに、例のかいまみ

の穴よりのぞけば、<sup>※1</sup>少納言はなし。こなたに几帳

立てたれど、側のかたより見入るれば、女、こなた

の方にうしろを向けて、持たる物を折る。向ひて控

へたる<sup>※2</sup>男あり。なまねぶたかりつる目も覚め、

<sup>C</sup>驚きて見れば、白き<sup>うちき</sup>袷のいと清げなる、搔練のい

とつややかなる一襲<sup>かさね</sup>、山吹なる。

※1 女君の侍女      ※2 女君の元に通っている少将

問 傍線部A～Cの主語を以下から選べ。

- 1、女君
- 2、少将
- 3、北の方
- 4、侍女